学芸会配役

案内役（照明お手伝い後藤も）

りく

先生（照明お手伝い）

野球少年Ａ

野球少年Ｂ

野球少年Ｃ

野球少年Ｄ

まさお

後藤

柴崎（野球少年かまさお）

妖精Ａ

妖精Ｂ

妖精Ｃ

妖精Ｄ

妖精Ｅ

妖精Ｆ

妖精Ｇ

妖精Ｈ

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

（　　　　　　　　）

♪：登場音楽

案内役「これはこれは、みなさん、どこかでお会いしたような、していないような。

　　　　（首をふり）さてさて・・・今回は・・・（本を読みだす）昔から人間はようせいが出て

　　　　くるお話がだいすきだそうで・・・でも、その姿を見たものはまだ、だ～れもいない。

　　　　すると、だれもがこう思うはずです。そう、妖精なんて、いないのだとね。

　　　　本当にいないんですかね・・・・・実はね・・・いるんですよ・・・・。あなたたちのす

　　　　ぐ近くに、それも、たーくさん。」

幕が開く

♪：カキーン

野球Ａ「いったぞーりく！」※声だけ

野球Ｂ「たのむぞ、りく！それを落としたら！」※声だけ

りく　「あわわわ」

※言いながら上手から後ずさりながら出てくる。りく、ボールを落とす。

♪：ゲームセット！

**暗転→照明夕方**

♪：ゆうぐれの音楽

野球Ｃ「あーあ」

野球Ｄ「りくのせいだ。」

野球Ａ「りくのせいで負けたんだぞ！」

　　　　りく、下を見てうつむいたままだまる

野球Ｂ「おい、なんとか言えよ。」

野球Ｃ「むだだよ、こいつ、何言ってもいつもこう。」

野球Ｄ「落ちこんで野球やるくらいだったら、もうやらないでくれよな！」アハハハハ

　　　　野球少年たちさっていく。

　　　　りく、とぼとぼと上手に向かって歩き出す。かなりスローで落ち込みながら

♪：ぼくは、長野りく、いつもこう、何をやってもだめ。（りく、下をむく）

　　　野球も、勉強も、友達関係も、何もかも、だめだめだ。（りく、だめだめをジェスチャーで）

　　　でも、今日、そんなぼくに、空からきせきがまいおりたんだ。

♪：何かが落下する音

　　　　りくの後ろ、下手側でがばくはつ

りく　「うわあ。」　　頭をかかえてすわりこむ

りく　「なんだ？今のは・・・・」

　　　　煙のあがるところへ行く。めがねをとる

りく　「うわあ、なんだよ、めがねかよ。しかもダサイ。」

りく　「それに、ぼく、目がいいし、かけても意味ないし。」

　　　　ステージの真ん中まで来て、りく、めがねをかける。

♪：　ようせい登場音

　　　上手、下手、カーテンの中から、たくさんのようせいが出てくる（全員登場）

　　　りく、こしをぬかす。

　　　りく、めがねをはずす。ようせい、全員消えていく。静かになったら

りく　「え・・・これ？」めがねを指さし　またかける

♪：ようせい登場音楽

　　　　大量のようせいが走り回る。これをもう一度くりかえす

りく　「ちょ、ちょっと君！」

　　　　ようせいＡの肩に手をかける

　　　　全員の動きと、音楽がとまる

妖精Ａ「え！」後ろをゆっくりふりかえる

妖精Ｂ「え！」りくをゆっくりみる

妖精全「え～！」りくをみる

妖精Ｃ「どうして？」

妖精Ｄ「どうして？」

妖精Ｅ「どうして、見えるの？」

妖精Ｆ「人間には、みえないはず」

妖精Ｇ「人間には、聞こえないはず」

妖精Ｈ「人間には、見つかってはいけないはず」

りく　「そんなこと言っても・・・は・・・・・これ？」めがねをおさえる。

妖精Ａ「どうしよう」

妖精Ｂ「どうしましょう」

妖精Ｃ「どうしてくれましょう」

妖精Ｄ「わ～！」　妖精たち、あわてふためく

妖精Ｅ「人間にみつかったら、私たち・・・」

妖精Ｆ「つかまって。」

妖精Ｇ「テレビに出て。」

妖精Ｈ「アイドルに！」

妖精全「ちがうちがう。」

妖精Ｆ「つかまって。」

妖精Ｇ「虫かごに入れられ。」

妖精Ｈ「食べられちゃう！」

妖精全「ぎゃー！」

妖精Ｆ「そうだ、あなた。名前は？」

りく　「ぼくは、りく、長野りく」

妖精Ｆ「長野りく、私たちととりひきをしましょう。」

妖精Ｇ「それがいいわ。りく。妖精はとりひきがとくいなの」

りく　「とりひき？どんな？」

妖精Ｈ「こんなのはどうかしら、あなたが私たちをみたことは秘密にするの。そのかわり、私たち

　　　　はあなたの役にたつことをするわ。」

りく　「役に立つことって？」

妖精Ａ「たとえば・・・・あ、あの人を見てて！」

　　　　ここで先生登場、妖精たち、先生に近づく

妖精Ｂ「このように、私たちは、人間には見えないの。」妖精、たくさん動く

妖精Ｃ「人間には聞こえないの。」妖精全員でさけぶ。

妖精Ｄ「だからこんなことをしても・・・」

　　　　妖精たち、先生にいたずらをする。

妖精Ｅ「ね、ばれないばれない。」

妖精Ｆ「これであなたの力になれるわ。どう？」

りく　「いいよ。じゃあ、とりひきだ！」

妖精全「とりひき、せいりつね。」

　　　　妖精たち、それぞれ舞台からはける

暗転

♪：「その日から、ぼくの人生は１８０度かわった。見えない妖精の力をつかって。」

全ライト

♪：「カキーン」

野球Ａ「いったぞーりく！」

野球Ｂ「たのむぞ、りく、それ落としたら・・。」

りく　「はいはい～。」

　　　　りく、ボールをみないできゃっちする。

♪：ゲームセット

野球全「やった！勝った！」

野球Ｃ「すごいじゃん、りく、みなおしたぞ！」りくの頭をグローブでたたきながら

野球Ｂ「りくのくせに！」

野球Ｄ「ボールをみないでとるなんて、まぐれか？」りくのせなかをつつきながら

　　　 りく以外、ここで止まる

暗転　りくにスポット

りく　「説明しよう、今のはまぐれではない。実はこうなっていたんだ。」

　　　　ライトアップ

りく　「まきもどし！」

全員　　まきもどっていく。（素早く）

♪:カキーン

野球Ａ「いったぞーりく！」

野球Ｂ「たのむぞ、りく、それ落としたら・・。」

りく　「はいはい～」

♪:妖精登場の音楽

　　 妖精が出てきて、ボールをつかみ、りくのグローブへと持っていく。

　　 ボールをりくのもとへとわたしたら、後は見守る。

♪:ゲームセット

野球全「やった！勝った！」

野球Ｃ「すごいじゃん、りく、みなおしたぞ！」りくの頭をグローブでたたきながら

野球Ｂ「りくのくせに！」

野球Ｄ「ボールをみないでとるなんて、まぐれか？」りくのせなかをつつきながら

りく　「まぐれじゃないよ、じ、つ、りょ、く、さ。」

野球Ａ「何だよ・・・・そのいいかた、生意気だな！」

野球Ｂ「りくのくせに！」

りく　「今の、君たちでは、ぼくには勝てないよ、何をやってもね」

野球Ｃ「何だと・・・・？」

りく　「あれ？聞こえなかったのかい？ぼ、く、に、は、か、て、な、いよ！」

野球Ｃ「お前、本当に生意気だな。」

野球Ｂ「りくのくせに！」

野球Ａ「こうなったら、決闘だ。」

野球Ｄ「よし、明日の午後５時、神社の前で待ってるからな！」

りく　「望むところだ！」

暗転→夕方

♪:ひぐらしの音

　　　りく、上手から歩いてくる

　　　野球Ａ～Ｄ下手から腕組みしながらがにまたで登場（音楽つけるか）

野球Ｃ「おうおうおうおうおう！」

野球全「おうおうおうおうおう！」

野球Ａ「よく来たな！」

野球Ｂ「りくのくせに！」

野球Ｃ「逃げ出したかと思ったよ。」

野球Ｄ「今日は、お前を倒すために、最強の助っ人を呼んでるんだぜ。」

野球全「まさおさーん！」

♪:まさお登場音　　まさお、堂々と登場（空手道着を着ている）

まさお「どういつかと思ったら、こんな弱そうなやつか。」

野球Ａ「まさおさんはな、空手の日本チャンピオンなんだぜ？」まさおの肩をたたきながら

野球Ｂ「りくなんかに勝てるわけがないんだよ。」

りく　「いいから、早くやろうよ」

野球Ｃ「何、何から何まで生意気なやつだ！」

野球Ｂ「りくのくせに！」

野球Ｄ「まさおさん、やっつけてください。」

まさお「じゃあ、えんりょなく！おりゃあ！」

　　　　まさお、りくの顔にパンチをするが、あたらない

まさお「なぜだ、なぜ、あたらない？」

りく　「今度は、ぼくの番だね」

　　　　りくのパンチ１発でまさおは遠くへとんでいく。

まさお「うわあああああ」

野球全「まさおさん！！」かけよる

まさお「つ、つよい！５０発くらいのパンチをもらった気分だ・・・。」

野球Ａ「だいじょうぶですか、まさ・・・・あひゃひゃひゃひゃ！」

野球Ｂ「たてますか、まさ・・・・あひゃひゃひゃ！」

野球Ｃ「おまえら何笑って・・・・あひゃひゃひゃ！」

野球Ｄ「まさおさんにしつれ・・・あひゃひゃひゃ！」

りく以外、ここで止まる

暗転　りくにスポット

りく　「説明しよう、今のはこうなっていたのだ」

　　ライトアップ

りく　「まきもどし！」

全員　　まきもどっていく。（素早く）

まさお「じゃあ、えんりょなく！おりゃあ！」

♪：妖精登場音楽

まさおのパンチをとめる

まさお「なぜだ、なぜ、あたらない？」

りく　「今度は、ぼくの番だね。」

　　　　りくのパンチと同時に妖精全員のパンチをまさおのおなかにあてる演技

まさお「うわああああ。」

野球全「まさおさん！！」かけよる

まさお「つ、つよい！５０発くらいのパンチをもらった気分だ・・・。」

妖精、ここでＡＢＣＤの後ろに回り込み、しゃべるたびにくすぐる。

野球Ａ「だいじょうぶですか、まさ・・・・あひゃひゃひゃひゃ！」

野球Ｂ「たてますか、まさ・・・・あひゃひゃひゃ！」

野球Ｃ「おまえら何笑って・・・・あひゃひゃひゃ！」

野球Ｄ「まさおさんにしつれ・・・・あひゃひゃひゃ！」

まさお「お～ま～え～ら～」

　　　　まさおおこってＡＢＣＤをおいかける

野球全「ひえええええええ」

　　　　野球少年下手ににげていく。

　　　　りくと妖精、ハイタッチをかわしていく。

暗転

♪：りくの録音

　　　「こうして、ぼくは妖精たちの力を利用して、楽しい毎日を手に入れることができた。

　　　　だけど、ぼくは少し、調子に乗りすぎてしまった。」

　舞台チェンジ　学校にする。

ライトアップ

♪：キーンコーンカーンコーン

先生　「それでは、今からテストを始める、用意始め！」

　　♪：妖精登場音楽

妖精Ａ「さあ、りく、何をすればいいの？」

妖精Ｂ「今度はどんな、楽しいいたずらをするの？」

りく　「今日は、テストのカンニングをしてもらうよ！」

妖精全「え！」

妖精Ｃ「いいの？そんなことして？」

妖精Ｄ「カンニングってとっても悪いことなんじゃ。」

りく　「いいからいいから！」

妖精Ｅ「・・・・わかったわ。」

　　　　妖精たち、他の人のテストをみながらりくに答えを教える

　　　　暗転→ライトアップ（時間の経過）

先生　「それでは、今日はこの前のテストを返す！」

先生　「すっごく簡単だったのかな？１００点が多かったぞ！」

先生　「後藤！１００点！」

後藤　「やった！」

先生　「しばさき！１００点！」

柴崎　「楽勝！」

先生　「長野・・・９０点！１問まちがえたな、おしかったよ。」

りく　「はい・・・・・」

　　　　暗転→ライトアップ

　　　　妖精たち、せいざをさせられている。

りく　「どういうこと！なんで、ぼくが１００点をとれないの？」

妖精Ｆ「ご、ごめんなさい、私がうつすところをまちがえてしまったの。」

妖精Ｇ「わ、わざとじゃないのよ、りく、ゆるしてあげて！」

りく　「ゆるすもんか！ぼくは１００点がとりたかったんだぞ！」

妖精Ｈ「妖精にもまちがえはあるわ・・・りく、それにやっぱりカンニングは」

りく　「うるさいうるさい！どいつもこいつも、使えない妖精ばかりだ！」

　　　　次から、妖精はセリフを言っては舞台下手にはけていく。

妖精Ａ「ひ、ひどい・・・」

妖精Ｂ「そんな言い方・・・」

妖精Ｃ「私たち、友達だと思ったのに・・」

妖精Ｄ「せっかく仲良くなれたと思ったのに・・・・」

妖精Ｅ「あなたは、もうその眼鏡を使えない・・・」

妖精Ｆ「あなたは、私たちの信頼をうしなった・・・」

妖精Ｇ「信頼がないと、もう見えないの・・・・」

妖精Ｈ「さようなら」

妖精全「さようなら」ぶたいうらで小さな声で

りく　「え、またまた、そんなこと言って、このめがねをかけていれば。」

りく　「あ、あれ、妖精が見えない・・・見えなくなっている・・・。」

　　　　暗転

♪：りくの声

「こうして、ぼくには、再び妖精の見えない世界がおとずれた。」

　　　りく、下手から出てくる　野球少年、上手から出てくるが、りくをよけていく。

りく　「ねえ、」

野球Ａ「ひえええええええ」走ってにげていく。

りく　「ねえ、」

野球Ｂ「この前はごめんなさーい！」走ってにげていく。

りく　「ねえったら。」

野球ＣＤ「もう、いじわるしませーん」

りく　「はあ・・・むなしい。」

りく　「ぼくがまちがっていた。こんなめがねにたよっていたぼくがいけないんだ。」

りく、めがねをなげすてる。

りく　「妖精たち、この前はごめんよ！ぼくが本当にほしいものはテストの点でも力で

　　　　もない、友達だったんだ！」

♪：妖精登場音　　※しかし、りくには見えていない。

妖精全「りく！」

妖精Ａ「ありがとう！」

妖精Ｂ「あなたはやっぱり心のきれいな人間ね！」

妖精Ｃ「私たちはあなたの」

妖精全「友達よ」妖精たち、りくのまわりを何度か回ってはけていく

♪：案内役登場

案内役「ほら、妖精はいたでしょう？でもね、妖精は心のきれいな人にしか近づきません。

　　　　妖精と友達になりたいと思えば、もしかしたら、あなたも会えるかもしれませんね。

　　　　そのさいは、いたずらのやりすぎにはご注意を。それでは、またどこかでお会いしましょう・・・。」

ブザー　終了。